

認定看護師の役割と活動

第1回 『感染管理認定看護師』

日本感染管理ネットワーク北海道支部道南ブロック

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会病院

かめやま さとし
亀山 敏 様

令和2年7月掲載

感染管理認定看護師は、日本看護協会が認定する分野の中では最も多く、全国では約2,900人、道南地域では13名が活動しております。自施設の状況を評価し、感染予防対策やシステムを構築する役割があり、状況の確認や職員の研修など、日々奮闘しております。

他にも、診療報酬の感染対策加算などによって医師や薬剤師、検査技師とチームを組んで他の施設と連携を図り、地域の感染状況や情報交換のカンファレンスや研修会に加わっております。

道南地域は、北海道の中でも早くから地域での活動に取り組んでおり、毎年7月には研修会を開催し、医療機関や介護施設、グループホームなどに協力を賜り、多くの方々に参加していただいておりますが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、開催することができませんでした。研修会を継続し、多くの方が感染予防、感染防止を理解し、施設に合った実践ができるようにつなげることを目的のひとつ

に掲げておりましたが、残念ながら延期となりました。

この新型コロナウイルスは、これまでに経験がないほどの影響を及ぼしました。感染予防策の基本となる「標準予防策」の手指衛生や環境整備に必要な薬剤の不足、マスクやガウン、

ゴーグルなどの個人防護具の不足、咳エチケット、

リネンの処理や廃棄物、器材の消毒、従事者の

教育等、標準予防策の基本となることが、物の

不足によってできなくなりました。「いつものように」は、「当たり前のように」ではなくなりました。



しかし、良かったこともあります。感染対策として、小さな子供から高齢者まで標準予防策が浸透したことでした。手指衛生、咳エチケットは特に実感しました。マスクを着用していない人を見つける方が難しくなり、手指衛生用の擦式アルコール製剤は売り切れとなりました。マスクやフェイスシールドの作成が紹介されるなど、物が不在中の感染対策についても、毎日の報道の効果はすごいと感心いたしました。実践される方が多くなったことを率直に感じました。

主な感染経路は、飛沫感染と接触感染となっていますが、傷のない健康な皮膚の手が触れた場合や物に触れてもすぐに感染は起きません。

手指衛生を行えば感染は起こらないとされます。過剰すぎる感染予防策も心理面で疲れてしまいますので、理解してほしいと思います。

ウイルスの特徴として、これからも感染予防策として対応する状況が続くと思いますが、標準予防策は、「自分を守る」「身近な人を守る」ということを理解して忘れないでほしいです。

地域には、経験の豊かで相談できる感染管理の看護師がおります。これからも、我々の活動をよろしくお願いします。



●現在、道南ブロック内では下記の病院に在職しています●

市立函館病院・函館五稜郭病院・函館中央病院・国立病院機構

函館病院・函館新都市病院・共愛会病院・西堀病院・八雲総合

病院・函館市医師会病院